

同窓会事務局報告

中村一巳君から「同窓会やろうや！協力してくれへんか」と電話があった。ちょうど、「そろそろ、だれか同窓会をやってくれたら、いいのに…」と思っていた時期であったので、二つ返事で「ああ、いいよ」と答えた。その直後、「あぐろ、テレビ見てみい！大変なことになってるぞ！また、あとで電話するわ！」と切れた。三月十一

日、東日本大震災である。その光景を見たとき、「同窓会なんかやってる場合じゃないな…。これで同窓会はなくなった」と思っていた。しかし、今年は「同窓会ばやり」とのことである。それは「こんな時代だからこそ、同窓会をやっておかなければならない」のだそうだ。中村君の情熱に押し出されるようにして協力することとなった。



名古屋から駆けつけてくれた河野君



上郡から駆けつけてくれた橋本さんのハーモニカ演奏

超過密スケジュールの合間を縫って

まず、前回の同窓会の幹事の下津屋君、丸居君、北川さんたちに連絡を入れて「力を合わせて同窓会をやろう」と声をかけた。しかし、それぞれに事情があり、このままではいつ同窓会をやるのか分からない状況になったので、とりあえず中村君を中心に、会計を小坂さん、そして同窓会事務に慣れている私が事務局長をさせてもらうことになった。山崎高校三年六組の同窓会事務局長を何回もさせていただいたので何をいつまでにどのよ

うにすべきかは分かっていた。ただ私も父を亡くし相続の手続き、ガソリン・スタンドの仕事と地下タンクの大工事、田植えから稲刈り、二つの神学校の講義等々、超過密スケジュールのあいまをぬっての取り組みであった。それで三役の話し合いで「2012年1月2日11～14時、山崎町生谷温泉伊沢の里」と即断即決させていただいた。そして、その後は“突貫工事にづく、突貫工事”の毎日であった。

福岡海の中道大橋飲酒運転事故以来

費用については、バブルの時期とは異なり今日の不況の時節、できるだけ低価格で準備が必要と思った。前回は八千円から九千円であったと聞いた。しかし、女性方に聞いたところ、主婦としては「飲み食いに一万円は痛い、五千円くらいなら集まりやすいのでは…」ということであった。それと、“福岡海の中道大橋飲酒運転事故”以来、会の主催者の連帯責任も厳しく問われる時代ともなっており、そのような責任はかぶりたくなかった。そこで

「ここは、ノン・アルコール飲料と料理で内容のある同窓会を準備するのが良いだろう」という判断となった。それからは「アルコール抜きで、みんなに喜んでもらえる同窓会づくり」に奔走することとなった。インターネットで全国のいろんな同窓会のプログラムや内容を研究させていただいた。三役とともに、学年の同窓会のあり方として、各クラスから二名の方に役員として集まってもらうことにした。

ふるさとの山に向かい
て、いうことなし。
ふるさとの山はありがた
きかな。

同窓会記念文集

「受付にたどりつくまで、「あんた誰やったかな」と言われはしないかと不安だった」しかし「受付ロビーで再会した時に、大きな歓声があがった。その時、やはり今回同窓会に来て良かったと思った！」等々の言葉が多くあった同窓会でした。この年齢、この時節、全員出席を願うことはかないません。ただ、記念写真や近況を知らせ合うハガキ、そして同窓会の雰囲気伝えるDVDは皆さんの心に何かを伝えるのではないのでしょうか。

わたし個人としましては、今回の同窓会が“最後の同窓会”と思い、微力ではありますが中村君のお手伝いをさせていただきました。参加して下さった皆さんから「このような楽しい同窓会に出席できて大変喜んでます」という言葉をたくさんお聞きし、その疲れが吹き飛びました。多くの方が次の同窓会の話さされるのを聞き、「ちょっと待ってください。少し休ませてください」とお願いしているところです。また、新しくやる気のある同窓生を中心にまた準備していただければ、いつになるか分かりませんが次回はゆったりお客さんとして参加させていただきたいと思えます。

情熱をもって開始し、最後まで牽引してくれた中村君と協力の輪に加わって下さった役員の方々「ありがとう！」と申し上げたいと思えます。今回の同窓会の土台は二十数年前の幹事の人たちが築いてくれました。私たちはその上に家を建てたにすぎません。そして、次にまた新たな同窓生がまた別の形で同窓生のグループの交わりを展開していつてくれると思えます。今回の同窓会の中にすでにそのような動きが躍動しているのをみさせていただき、大いに励まされました。

一宮南中学校第三回卒業生同窓会事務局

〒671-4135

兵庫県宍粟市一宮町安黒389番地 安黒 務

ゆうちょ銀行(総合口座通帳)

【一宮南中学校第三回卒業生同窓会】

記号14350 番号59390861

電話: 0790(72)0235

FAX: 0790(72)0235

電子メール: aguro@mt.h.biglobe.ne.jp

プライバシーを守りつつ、同窓会のさまざまな情報が上記のサイトに掲載されていますので、また閲覧していただけたら幸いです。同窓会のスナップ写真や故郷の風景写真、校歌と風景ビデオ、故郷の道路風景ビデオ等、インターネットを通して郷里を懐かしむことができます。

一南第三回卒業生一同の記念碑としての校訓碑

そうこうする中で、前回の同窓会会計に十数万円弱の残金が残っている知らせが届いた。前回会計の方より「①残金を振り込みたいので、役員全員の署名・捺印のある同窓会の通帳をきちんと作ってほしい。②残金は会費というよりも、カンパによるものなので今回の飲み食いには使用しないでほしい。」の二点の要請があった。そこで郵便局窓口にて「同窓会の公式の通帳を作らせてほしい」とお願いしたところ、「同窓会の規約がなければ作れません。ここにサンプルがありますので、これに従って同窓会規約を作ってください」と言われた。「そこまでしなくても良いのではないか」と思い、しばらく頓挫していたのだが、「ここは前回の幹事の方々に敬意と感謝を示す意味でも、その要請に応え、二十数年宙に浮いていたお金をきちんと処理することも今回の同窓会の使命ではないか」と思い至った。ただ、卒業後四十数年を経てから「同窓会規約を作るなど、とんでもない」ことのように思われ、役員と同窓生のみさんの

理解を得ることは大変なことではあった。しかしそれはなすべきことと思われた。「十数万円弱の残金が永遠に宙に浮き続けることは、良くない」ゆえ、規約を作り、通帳をつくり、前回の残金の使途も、規約にのっとって役員の方々と相談し、一宮南中学校に耐震の新校舎完成に合わせて備品を献品させていただくこととなった。学校を訪問し、その意向を伝えると、ちょうど上田重典くんの友人であった長野徳三校長であり、この取り組みを理解し、尽力して下さった。職員会議で相談し、「備品であれば消耗してすぐになくなるだろうから、学校の玄関の石碑とし、それに校訓を彫ってもらうことにしよう」ということになった。

前回の幹事の方々が残して下さった大切なお金をこのように有意義なカタチで活用させていただくことができ大変感謝している。同窓会全体の様子を前回同窓会の幹事長の下津屋君に報告し、前回の残金の関係もあるので、会計監査のひとりとして加わっていただいた。感謝！



ノン・アルコールで盛り上がる
個人持込の酒やビールもあり